

Tāranātha の *dBu ma theg mchog* 第3章

## 「仏の心髄である法界の決択」について

望月海慧

## はじめに

筆者は、これまで Tāranātha Kun dga' snying po (1575-1635) の *Theg mchog shin tu rgyas pa'i dbu ma chen po rnam par nges pa (dBu ma theg mchog)* に対する研究を行い、次の論考を発表してきた。

1. "On the first Chapter of the *dBu ma theg mchog* by Tāranātha", 『印度学仏教学研究』 58-3, 2010, pp. (136)-(143).
2. 「Tāranātha の *dBu ma theg mchog* 第2章「一切の所知の境の決択」について」『インド論理学研究』 1, 2010, pp. 313-332.
3. "On the fourth Chapter of the *dBu ma theg mchog* by Tāranātha", *Acta Tibetica et Buddhica* 3, pp. 129-154.

本稿はこれらに続くものであり、同論の第3章を考察したものである<sup>1</sup>。テキストの全体の概要や書誌情報などについては、これらの先行する論文を参照いただきたい。

## 第3章の内容

第3章<sup>2</sup>のタイトルは、「仏の心髄<sup>3</sup>である法界の決択 (*sangs rgyas kyi snying po chos kyi dbyings gtan la dban pa*)」と言うものがある。全体で57偈よりなるが、他の章と同じように、これは Tāranātha 自身による偈だけでなく、Maitreya や Nāgārjuna という先行するインドの論書からの引用も含んでいる。テキストの前半部分がこれらの引用からなり、後半はそれらの引用に対する Tāranātha の解説部分である。Ye shes rgya mtsho (16<sup>th</sup>/17<sup>th</sup>cent.) の注釈書<sup>4</sup>は、これを「解説されるべき聖典を広げること」と「それを考察するもの」と説明している。

この引用よりなる前半部分に対して著者は、(1)界の意味 (*dbyings kyi don*)、(2)蔵の意味

1 本稿は、2010年8月15-21日にカナダのプリティッシュ・コロンビア大学において開催された第12回国際チベット学会にて発表した原稿と配布資料に基づくものである。Michael Sheehy 博士 (Tibetan Buddhist Resource Center) と David Templeman 博士 (Monash University) には貴重なコメントをいただき、ここに御礼申し上げる。

2 D. 6a1-9a3; L. 7b6-12b4; M. pp. 20, 18-27, 11; B. pp. 10, 3-13, 17.

3 仏の心髄とは、「如来蔵」のことである。

4 *Theg mchog shin tu rgyas pa'i dbu ma chen po rnam par nges pa'i rnam bshad zin bris dbu phyogs legs pa*. D. 30a3-48b5; M. vol. 85, pp. 4-80, 18; B. vol. 10, pp. 94-116.

(snying poi don)、(3)常の意味 (rtag pa'i don)、(4)遍満の意味 (khyab pa'i don)、(5)明の意味 (rig pa'i don)<sup>5</sup>、(6)一切相 (rnam pa thams cad pa)、(7)無戲論の特徴 (spros pa med pa'i mtshan nyid)、(8)混ざらない特徴 (ma 'dres pa'i mtshan nyid)、(9)双入の特徴 (zung du 'jug pa'i mtshan nyid)、(10)種姓 (rigs) と界 (khams) の10項目を引用した偈の後に添えている<sup>6</sup>が、注釈者はこの最初の二つを9項目に区分する<sup>7</sup>。この項目については、第24-25偈に「法界とは如来蔵である」まとめられており、(1)常住、(2)遍満、(3)自証知、(4)一切相、(5)無戲論、(6)無着、(7)双入、(8)種姓、(9)勝義知との9項目をあげている。これに基づいて、本章のテーマである「法界・如来蔵」をこの9項目の内容に基づいて解説したと理解することができる。

9音節からなる第23偈以下の後半部分は、この9項目に基づいて Tāranātha 自身が法界・如来蔵を解説した部分となる。注釈者は、この後半を「解説されるべき聖典を考察したものとする<sup>8</sup>。ただしこの区分は後半にいくと曖昧になり、末尾にはアーラヤ識<sup>9</sup> [48-51]、因果関係 [52-55] などへの言及も見られる。

これらに基づいてテキスト全体の構成を分析すると次のようになる。

## 1 解説されるべき聖典を広げるもの

### 1.1 法界と如来蔵

1.1.1 界の意味 [1-2 = MSA<sup>10</sup> 11.13-14]

1.1.2 [如来] 蔵の意味 [3 = MSA 9.37]

### 1.2 9項目

1.1.1 常の意味 [4-5 = RGV<sup>11</sup> 1.80, 1.51]

1.1.2 遍満の意味 [6-7 = RGV 1.49-50]

1.1.3 知の意味 [8]

1.1.4 一切相の意味 [9-14 = RGV 1.84, 2.5, 1.42-44, 1.92]

1.1.5 無戲論の特徴 [15 = MSA 6.1]

1.1.6 不共の特徴 [16-17 = RGV 1.30ab, 1.52]

1.1.7 双入の特徴 [18 = RGV 1.155]

5 注釈書は、ここで rNgog lo chen po のテキストを引用し、「如来蔵の認識は空性を非存在の滅となすことである」とする。また Sa skya paṇḍita が戲論を離れたものが空性とするのに対し、Bu ston chen po は如来蔵をアーラヤ識とみなしているとする。

6 これらの句は偈頌のスタイルをとらない。

7 注釈書は、これらの9種類の項目を列挙せずに解説に入っていることから、その項目については続く解説部分から推定するしかない。

8 注釈者は、「(法) 界の意味と如来蔵自身に対する疑惑の除去方法は、以下の二諦と二無我の(第6, 7)章で詳しく解説される」とする。

9 八識説は次章のテーマでもあり、ここでも同じように *Ghanavyūhasūtra* に言及している。

10 MSA = *Mahāyānasūtrālamkārikā*.

11 RGV = *Ratnagotravibhāgākārikā*.

- 1.1.8 種姓 [19 = RGV 1.27]
- 1.1.9 界 [20-21 = RGV 1.96-97]
- 1.2 ナーガールジュナの学派との無矛盾 [22 (= MMK<sup>12</sup> 22.16) -23]
- 1.3 如来蔵の九種の特徴をもつ法界 [24-25]
- 2 聖典の解説<sup>13</sup>
  - 2.1 9項目
    - 2.1.1 常の意味 [26ab]
    - 2.1.2 遍満の意味 [26cd-27ab]
    - 2.1.3 知としての勝義界 [27cd-28ab]
    - 2.1.4 一切相の同意<sup>14</sup> [28cd-30]
    - 2.1.5 無戲論の同意 [31ab]
    - 2.1.6 無着<sup>15</sup>の同意 [31cd-33]
    - 2.1.7 双入の同意 [34]
    - 2.1.8 種姓 [36-40]
    - 2.1.9 界 [41-55]
  - 2.2 罪過と利益 [56-57]

## まとめ

*dBu ma theg mchog* の第3章の内容をまとめると次のようになる。まず Tāranātha は法界を Maitreya の *Mahāyānasūtrālamkāra* と *Ratnagotravibhāga* に基づいて理解し、それを如来蔵としても認識している。またこのような理解は Nāgārjuna の教義とも矛盾しないとし、さらにはアーラヤ識も仏性理論に取り込んでいる。このようなことから、著者の仏性理解は、瑜伽行唯識派の教義を含む如来蔵思想であり、それを大中観に取り入れたものである。この姿勢はチヨナン派の先行する Dol po pa Shes rab rgyal mtshan のものと同じであることから、Tāranātha は彼の思想を継承しているということが確認できる。

## *dBu ma theg mchog* 第3章和訳

真実の辺際から始めて、偈頌に尊者が説かれている。

常に二を離れて、迷乱の所依であり、すべての相において述べられないものであり、戲論のない性質のものが真実である。知られるべきものと捨てられるべきものと自性が無垢

12 MMK = *Mūlamadhyamakārikā*.

13 注釈者は、「疑惑を断じること (dogs pa gcod pa)」と述べる。

14 前半の「特徴 (mtshan nyid)」に対して、ここでは「同意 (thad)」の語が用いられている。

15 注釈者は、「不共 (ma 'dres pa)」ではなく、「無着 (ma gos pa'i 'thad pa)」とする。

と認められるものが浄化されたもので、それは虚空と金と水のように煩惱から浄化されたものと認められる<sup>16</sup>。[1]

有情たちには、それ以外のものは僅かたりとも存在せず、すべての有情もそれに対する蒙昧な知で、存在するものをすべて捨てて、存在しないものに執着するものであり、世間の蒙昧の大慌てと同じものはどのようなのか<sup>17</sup>。[2]

と言う界の意味と、

真如は一切に対して差別なくとも、清浄になり、如来たるものである。それ故にすべての有情はその心髄をもつ<sup>18</sup>。[3]

と言う心髄の意味と、

生もなく、死もなく、害もなく、老もない。それは常住で堅固であるから、寂靜で不滅であるから<sup>19</sup>。[4]

過失は客塵をともない、功德は自性をともなうので、前の通りに後もその如く、変化のない法性である<sup>20</sup>。[5]

と言う常住の意味と、

例えば無分別の本質をもつ虚空が普く随在するように、心の自性の無垢界もそのように普く遍在する<sup>21</sup>。[6]

その共通相は、過失と功德と究竟と遍満とである。色相の劣ったものと中間と最上とに対する虚空の如くである<sup>22</sup>。[7]

と言う遍満の意味と、

有身に存在する無漏智は蜂蜜に似ており、煩惱は蜂に似ており、それを制圧することを知る勝者は人の如くである<sup>23</sup>。[8]

と言う明の意味と、

何故ならばそれは法身で、それは如来で、それは聖諦で、勝義の涅槃である。それ故に日と月のように功德と区別がないので、仏そのものから離れた涅槃は存在しない<sup>24</sup>。[9]

光明と無作と無差別に入るものをもつガンガーの砂を越えた仏の法をすべてもつものである<sup>25</sup>。[10]

16 MSA 11. 13. 宇井伯寿『大乘莊嚴經論研究』（岩波書店、1961年）、pp. 202-203.

17 MSA 11. 14. 宇井1961, p. 204.

18 MSA 9. 37. 宇井1961, p. 153.

19 RGV 1. 80. 高崎直道『宝性論』（講談社、1989年）、p. 93.

20 RGV 1. 51. 高崎1989, p. 73.

21 RGV 1. 49. 高崎1989, p. 72.

22 RGV 1. 50. 高崎1989, p. 72.

23 RGV 1. 50. 高崎1989, p. 108.

24 RGV 1. 84. 高崎1989, pp. 95-96.

25 RGV 2. 5. 高崎1989, p. 142.

大海のように無量の功德の宝は尽きることなく存在する。区別のない功德をもつ本質なので灯火の如くである<sup>26</sup>。[11]

法身と勝者の知恵と悲心の界が集められているので、器と宝と水によりこれは大海に似ていると説かれている<sup>27</sup>。[12]

無垢処における神通と知恵と無垢と真如と無差別なので灯火の明かりと熱と色との類似する法をもっている<sup>28</sup>。[13]

それらの画師というものは、布施と戒と忍などで、すべての相の最高をもっている空性が画と述べられている<sup>29</sup>。[14]

と言う一切相とである。

有でもなく、無でもなく、その如くでもなく、他でもなく、生と滅がなく、減少もせず、増加もなく、浄化もなく、清浄になる。それが勝義の特徴である<sup>30</sup>。[17]

と言う無戲論の特徴である。

宝と虚空と浄水のように常に自性は染汚がない<sup>31</sup>。[16]

例えば虚空は遍在するけれども、微細なので染汚がない。そのように一切衆生に存在するこれは染汚がない<sup>32</sup>。[17]

と言う不共の特徴である。

区別をともなう特徴をもつ客塵により界は空であるが、無区別をともなう特徴をもつ無上法により空ではない<sup>33</sup>。[18]

と言う双入の特徴である。

正覚身が広がり、真如が無差別で、種姓が存在するので、一切の有身者は常に仏蔵をもつ<sup>34</sup>。[19]

仏が萎える蓮華に、蜜が蜂の中に、初に実が、不浄の中に金が、地中に宝蔵が、芽などが果実の中に、襤褸の衣の中に勝者の身が、下賤な女性の胎内に主たる人が、地中に宝像が存在するように、客塵の煩惱の垢により覆われた衆生にそのようにこの界が存在する<sup>35</sup>。[20-21]

と種姓と界としても説かれている。軌範師ナーガールジュナが解説している。

26 RGV 1. 42. 高崎1989, p. 65.

27 RGV 1. 43. 高崎1989, p. 65.

28 RGV 1. 44. 高崎1989, p. 67.

29 RGV 1. 92. 高崎1989, p. 100.

30 MSA 6. 1. 宇井1961, p. 104.

31 RGV 1. 30ab. 高崎1989, p. 47.

32 RGV 1. 52. 高崎1989, p. 74.

33 RGV 1. 155. 高崎1989, p. 133.

34 RGV 1. 27. 高崎1989, p. 44.

35 RGV 1. 96-97. 高崎1989, p. 105.

如来の自性であるものは、この有情の自性である。如来の自性は存在せず、この有情の自性は存在しない<sup>36</sup>。[22]

そのように解説された存在しないものには戯論はない。他に特殊な基盤なしに特殊な法を考察している。幻のようなものをまた考察することで何になろう。有情の自性を事物と疑うことは断じられる。[23]

その法界は、如来蔵である。常住で、遍満で、自証知で、一切相で、完全に断じられる特徴の戯論を離れ、付着を断じた意味と、[24]

双入と、自性の種姓と、勝義知とで、そのようにその特徴は九種である。ここで勝義界の場所の在り方と、ヨーガ行者に顕現する通りの在り方である。[25]

変化するならば、事物であるので、偽りである。変化が存在しないものがあるので常住である。部分をもつものに遍満は存在せず、部分がなく、遠近がないことにより遍満が成立する。[26]

知と所知の区別はなく、勝者により知られるので、自己と明として成立している。明も、知られるものと知ることを必要としない。湿気にも湿されるものと湿すものとは存在しない。[27]

湿っている性質だけのものが設定されているように、自身を知るだけでこれを否定できる。勝者の智と区別がないので、界であり、勝者の智として量により成立している。[28]

それ故に究極の功德により何故に存在しないのか。それにより究極の所知が知られるので、すべての所知の勝義の相を把握し、それ故に輪廻と涅槃のすべての相が起きる。[29]

波羅蜜のすべてに相応する法性によりそれを修習してから、これも明らかになる。すべての煩惱に相応しない法性によりそれを浄化する力からこれが明らかになるのである。[30]

すべての分別の対象を越えているので、それは戯論と言説のすべてを離れている。真実ではないものを考察することは始めから存在しないので、それに付着することはなく、それは付着しない。[31]

特徴を否定してから特徴の基盤が否定されるであろう。身体が否定されれば、身体をとまうものが否定されることになり、身体をもつものが否定されれば、人などが否定される。それが否定されても、虚空は否定されないように。[32]

生が否定されることで、生をとまうことを否定することになっても、生が存在しないという在り方を否定することはできない。この種姓は他のものすべてに合わされる。常と遍満などと戯論を離れることに矛盾はない。[33]

空と非空の両者に入る。対象として両者が存在しないので、入ることも存在しない。区

36 三枝充恵「中論偈頌総覧」(第三文明社, 1985年), pp. 676-677.

別がなく、その設定されたものは、世俗により空で、知恵により非空である。[34]

ヨーガ行者の智と合わせてから、それが種姓であり、それが界でもある。その無始時から相続したそれが現れて、法性により得た六処の法である。[35]

「それに似ている」と言われる特殊な三法をともなっていると説かれており、九つの喩例により心髄を説いた在り方は、おそらく成就者の智に従う在り方である。それぞれの衆生のそれぞれの心髄と、[36]

相続をともなう在り方と、諸仏による身体と心に類似しているだけの種姓である。それらも道により広げられるようになる在り方などで、ヨーガ行者に顕現する通りの在り方である。[37]

そこにも凡夫と聖者のそれぞれが見る在り方として存在し、それらが存在する在り方によるのではない。これは三時に遍満しても、時を離れており、それ故に「相続」と言われるものはここでは認められない。[38]

相続は、迷乱の本質のみに尽きるので存在せず、知恵は迷乱しない本質として存在するから。それぞれに存在するならば迷乱なので、それは真実ではない。例えば異なる場所にある塵のように。[39]

道による拡大も自性ではないので、仏智が客塵であるという過失になる。遍満とはすべての基盤なので、すべての法の界であり、すべての相なので種姓でもある。[40]

界の意味は、金の界が金の石に遍満するように、種姓は、類似していても、一義になってしまう。仏がすべてに遍満しているとしても、それぞれの部分がそれぞれに遍満しているのではない。[41]

正覚者がそれぞれの衆生に遍満しており、衆生は障害により妨げられているので、それを見ない。太陽は雲により全く妨げられなくても、大地が雲により妨げられた時に凡夫は、[42]

「太陽が雲の中にある」と言う。有情の如来蔵もそれと同じである。心髄がなければ、法性が存在しなくなり、法性がなければ法をもつものがどこに存在しようか。[43]

それがなければ特徴をとることもなく、それもないれば、認識されるものと知られるものと考察されるものと見えるものなどが存在しなくなる。存在しなければ、「世俗を顕現のみとして、[44]

誹謗しないのか」と言う場合も、偽りの言葉でしかない。顕現するならば、認識することと知ることと考察することと見るものが存在しないことと矛盾する。考察されない顕現のみに法性が存在しても、「勝義諦には存在しない」と言われる。[45]

その顕現の本質に似たものが存在するならば、世間の人たちにも法性が顕現することになってしまう。真実として存在せず、顕現も顕現しないのならば、存在の言説だけでもど

こに成立しようか。[46]

真実が存在しないものが顕現するならば、欺く法は世俗である。その勝義は法をもつものになってしまう。それ故にこの世間の顕現の本質は存在せず、知恵の本質として顕現するものが真実である。[47]

輪廻と涅槃のすべての基盤である勝義であるから、すべての基盤である知として聖者は意図している。アーラヤ識は心髄として説かれていても、指先で月を指すことと、[48]

赤い衣を説いて人を指すことに似ており、劣った智の者はこの意味を知らないと説かれている。自らの本質としての勝義の涅槃であり、これを把握することで一切の寂靜を得る。[49]

金が存在する際のその鏝のように、輪廻に最初と最後がなくとも、それから現れる。その界が輪廻の原因でなくとも、それがなければそれもありえないので、[50]

「虚空に風輪が依存する」と言われるように、「輪廻の基盤になる」と設定されているものが、客塵の涅槃の対象であり、それも「基盤と原因」として賢者に知られている。[51]

「所依と基盤と原因と種姓」としてヨーガ行者の智に現れる在り方である。それぞれを解説することでその勝義界の場所の在り方を考察する必要があるので説かれている。[52]

自性が種姓として現れたり、現れなかったりすることはない。それが存在する理由は、広大になる人に「それも現れる」と設定されているだけで、「これを広げて、それも広げる」と言う言説が設定されている。[53]

獲得する対象がなければ、すべての法は、結果がない。存在しても、事物がないものは獲得に何の必要があろうか。新たに生じたそれが、退けられたり、中断することがある。功德の原因も少ないものから結果が多いのならば、[54]

おおよそ種姓が同じものが新たに生じることに何故ならないのか。過失が功德となっても、等しくはない。仏の知恵の功德は終わりが無いから。それ故に最初のものとして結果を設定している。[55]

「仏は無常で、法身は存在しないと否定し、心髄が全くなくて、真実ではないことを説き、心髄の功德がなく、この法を誹謗する彼らは短命で、多病で、癩病をもち、[56]

財産を損ない、権力を損ない、存在を損ない、愚者は悪趣に生まれる」と經典に説かれており、この意味を説く者は長寿で、無病で、楽しむ。位が動くことなく、常住な身体を得ることが確実である<sup>37</sup>。[57]

と述べる「仏の心髄である法界を決定する」第3章。

37 注釈書は、最後の二偈に対して「理解し易い」とし、解説を行わない。



The Tibetan Text of the *dBu ma theg mchog*: Chapter 3

yang dag pa'i mtha' las brtsams te<sup>38</sup> tshigs bcad du rje<sup>39</sup> btsun gyis gsungs pa /<sup>40</sup>  
 rtag tu gnyis bral 'khrul pa'i<sup>41</sup> rten gang yin dang gang zhig rnam kun tu //  
 brjod par<sup>42</sup> nus ma yin<sup>43</sup> cing<sup>44</sup> spros pa med pa'i bdag nyid de kho na //  
 (M. 21)shes bya spangs bya<sup>45</sup> rang bzhin dri med 'dod gang rnam par sbyang bya ste //  
 de ni nam mkha' gser dang chu ltar nyon mongs pa las rnam dag 'dod /<sup>46</sup> [1]  
 'gro ba dag na de las gzhan pa'ang<sup>47</sup> cung zad yod min la<sup>48</sup> //  
 'gro ba ma lus pa yang de la kun tu rmongs pa'i blo //  
 yod pa kun nas spangs te med la mngon zhen gang yin pa //  
 'jig rten rmongs pa'i rnam pa tshabs chen 'di ko ji lta bu /<sup>49</sup> [2]  
 zhes dbyings kyi don dang /<sup>50</sup>  
 de bzhin nyid ni thams cad la //  
 khyad par med kyang dag gyur pa //  
 de bzhin gshegs nyid de yi phyir //  
 'gro kun de yi snying po can /<sup>51. 52</sup> [3]  
 zhes snying po'i don dang /

38 M: *brtsam ste*.39 D: *rjes*.

40 DL: //.

41 M: *ba'i*.42 L: *pa*.43 L: *pa min*.44 BM: *zhing*.45 M: *byar*.46 MSA 11. 13. Sylvain Lévi. *Mahāyānasūtrālamkāra*, tome 1. Paris: Libraire honoré champion, 1907. p. 58:

tatvaṃ yatsattaṃ dvayena rahitaṃ bhrāntes ca saṃnīśrayaḥ  
 śakyaṃ naiva ca sarvathābhilapitum yac cāprapañcātmakam /  
 jñeyaṃ heyam atho viśodhyamamalaṃ yac ca prakṛtyā mataṃ  
 yathākāśasuvānavārisadrī kleśād viśuddhiir matā //

47 L: *du'ang*.48 L: *pa*.49 MSA 11. 14. Lévi, *op. cit.*, p. 58:

ca khalu jagati tsmād vidyate kiṃ cid anyaj  
 jagad api tadaśeṣaṃ tatra sambūḍbuddhi /  
 yad asad abhiniviṣṭaḥ satasamantād vihāya //

50 L: //.

51 L: /.

52 MSA 9. 37. Lévi, *op. cit.*, p. 40:

gāmbhīryamamale dhātau lakṣanasthānakarmasu /  
 buddhānām etad uditam raṅgair vākāśacitraṇā //

skye ba med cing 'chi ba med //  
 gnod<sup>53</sup> med rga ba med pa ste //  
 de ni rtag dang brtan phyir dang //  
 zhi ba'i phyir dang g-yung drung phyir //<sup>54</sup> [4]  
 nyes pa glo bur dang ldan dang //  
 yon tan rang bzhin nyid ldan phyir //  
 ji ltar sngar bzhin phyis de bzhin //  
 'gyur ba med pa'i chos nyid do //<sup>55</sup> [5]

zhes rtag pa'i don dang /<sup>56</sup>  
 ji ltar rtog<sup>57</sup> med bdag nyid can //  
 nam (L. 8b) mkha' kun tu rjes song ltar //  
 sems kyi rang bzhin dri med dbyings //  
 de bzhin kun tu 'gro ba nyid //<sup>58</sup> [6]  
 de spyi'i mtshan nyid nyes pa dang //  
 yon tan mthar thug khyab pa ste //  
 gzugs kyi rnam pa dman pa dang //  
 bar ma mchog la nam mkha' bzhin //<sup>59</sup> [7]

zhes pa khyab pa'i don dang /<sup>60</sup>  
 lus can la yod zag pa med pa'i shes pa sbrang ma'i rtsi dang 'dra //  
 nyon mongs sbrang ma dang 'dra de 'joms pa la mkhas pa'i rgyal ba skyes bu (D. 6b)  
 bzhin //<sup>61</sup> [8]

53 M: *gnas*.

54 RGV 1. 80. E.H. Johnston, *The Ratnagotravibhāga Mahāyānottaratantrasāstra*, Patna: The Bihar Research Society, 1950, p. 53:

na jāyate na mriyate bādhyate no na jiryate /  
 sa nityatvād dhruvatvāc va śivatvāc chāśvatatvataḥ //

55 RGV 1. 51. Johnston, *op. cit.*, p. 41:

doṣāgantukatā-yogād guṇa-prakṛti-yogataḥ /  
 yathā pūrvam tathā paścād avikāritva-dharmatā //

56 D: //.

57 D: *rtogs*.

58 RGV 1. 49. Johnston, *op. cit.*, p. 41:

sarvatrānugataṃ yadvan nirvikalpātmakaṃ /  
 citta-prakṛti-vaimalya-dhātuḥ sarvatragas tathā //

59 RGV 1. 50. Johnston, *op. cit.*, p. 41:

tad doṣa-guṇa-niṣṭhāṣu vyāpi-sāmānya-lakṣaṇam /  
 hina-madhyā-viśiṣṭeṣu vyoma rūpa-gateṣv iva //

60 L: //.

zhes pa rig pa'i don dang /

gang phyir de ni chos sku de ni de bzhin gshegs //  
 de ni 'phags pa'i bden pa don dam mya ngan 'das //  
 de phyir nyi dang zer bzhin yon tan dbyer med pas //  
 sangs rgyas nyid las<sup>62</sup> ma gtogs (M. 22) mnya ngan 'das pa med //<sup>63</sup> [9]  
 'od gsal byas min dbyer med par<sup>64</sup> //  
 'jug<sup>65</sup> can ganggā'i<sup>66</sup> klung gi ni //  
 rdul las 'das pa'i sangs rgyas kyi //  
 chos rnam kun dang ldan pa nyid //<sup>67</sup> [10]  
 rgya mtsho che bzhin dpag med pa'i //  
 yon tan rin chen mi zad gnas //  
 dbyer med yon tan dang ldan pa'i //  
 ngo bo nyid phyir mar me bzhin //<sup>68</sup> [11]  
 chos sku rgyal ba'i ye shes dang //  
 thugs rje'i khams ni bsdu pa'i phyir //  
 snod dang rin chen chu yis 'di //  
 rgya (L. 9a) mtsho dang ni mtshungs par bstan //<sup>69</sup> [12]  
 dri med gnas la mngon shes dang //  
 ye shes dri med de nyid dang //

61 RGV 1. 104cd. Johnston, *op. cit.*, p. 62:

kuryāt kāryam anāsravaṃ madhu-nibhaṃ jñānaṃ tathā dehiṣu kleśāḥ kṣudra-nibhā jīnaḥ puruṣavat  
 tad ghātane kovidaḥ //

62 L: *la*.

63 RGV 1. 84. Johnston, *op. cit.*, p. 55:

sa dharmā-kāyāḥ sa tathāgato yatas tad ārya-satyam paramārtha-nirvṛtiḥ /  
 ato na buddhatvam ṛte 'rka-raśmivad guṇāvinirbhāgatayāsti nirvṛtiḥ //

64 BD: *pas*.

65 L: *lus*.

66 DL: *gang ga'i*.

67 RGV 2. 5. Johnston, *op. cit.*, p. 80:

gaṅgā-tira-rajo 'titair buddha-dharmaṃ prabhāvitam /  
 sarvair akṛtakair yuktam avinirbhāga-vṛttibhiḥ //

68 RGV 1. 42. Johnston, *op. cit.*, p. 37:

mahodadhir ivāmeḥ guṇa-ratnākṣayākaraḥ /  
 pradīpavad anirbhāga-guṇa-yukta-svabhāvataḥ //

69 RGV 1. 43. Johnston, *op. cit.*, p. 37:

dharmakāya-jīna-jñāna-karuṇā-dhātu-saṃgrahāt /  
 pātra-ratnāmbuddhiḥ sāmīyam udadher asya darsitam //

rnam dbyer<sup>70</sup> med phyir mar me yi //  
 snang dang dro mdog chos mtshungs can //<sup>71</sup> [13]

de rnams 'dri byed gang yin pa //  
 sbyin dang tshul khriims bzod la sogs //  
 rnam pa kun gyi mchog ldan pa'i //  
 stong pa nyid ni gzugs su brjod //<sup>72</sup> [14]

ces<sup>73</sup> pa rnam pa thams cad pa'o //  
 yod min med min de bzhin min gzhan min //  
 skye dang 'gag med 'bri bar mi 'gyur zhing //  
 'phel ba med cing rnam par dag pa'ang med //  
 rnam par dag 'gyur de ni don dam mtshan //<sup>74</sup> [15]

zhes<sup>75</sup> pa spros pa med pa'i mtshan nyid do //  
 rin chen nam mkha' chu dag bzhin //  
 rtag tu rang bzhin nyon mongs med //<sup>76</sup> [16]  
 ji ltar nam mkha'<sup>77</sup> kun song ba //  
 phra phyir nye bar gos pa med //  
 de bzhin sems can thams cad la //  
 gnas 'di nye bar gos pa med //<sup>78</sup> [17]

ces<sup>79</sup> pa ma 'dres pa'i mtshan nyid do //  
 rnam dbyer bcas pa'i mtshan nyid can //

70 D: *dbye*.

71 RGV 1. 44. Johnston, *op. cit.*, p. 38:  
 abhijñā-jñāna-vaimalya-tathatāvvyatirekataḥ /  
 dīpālakoṣṭha-varnasya sādharmyaṃ vimalāśraye //

72 RGV 1. 92. Johnston, *op. cit.*, p. 57:  
 lekhakā ye tad ākāra dāna-śīla-kṣamādayaḥ /  
 sarvākāra-varopetā śūnyatā pratimocyate //

73 D: *zhes*.

74 MSA 6. 1. Lévi, *op. cit.*, p. 22:  
 na sanna cāsanna tathā na cānyathā na jāyate vyeti na cāvahiya te /  
 na vardhate nāpi viśuddhyate punar viśuddhyate tat paramārtha-lakṣaṇam //

75 L: *ces*.

76 RGV 1. 30ab. Johnston, *op. cit.*, p. 27:  
 sadā prakṛty-asamkṣiṭṭaḥ śuddha-ratnāmabarāmbuvat /

77 L: *mkhar*.

78 RGV 1. 52. Johnston, *op. cit.*, p. 42:  
 yathā sarva-gatam saukṣmyād ākāśam nopalipyate /  
 sarvatrāvasthitaḥ sattve tathāyaṃ nopalipyate //

79 D: *zhes*.

glo bur dag gis khams stong gi //<sup>80</sup>

rnam dbyer med pa'i mtshan nyid can //

bla med chos kysis stong ma yin //<sup>81</sup> [18]

zhes pa (D. 7a) zung du 'jug pa'i mtshan nyid do //

rdzogs sangs sku ni 'phro phyir dang //

(L. 9b) de bzhin nyid dbyer med phyir dang //

rigs yod phyir na lus can (M. 23) kun //

rtag tu sangs rgyas snying po can //<sup>82</sup> [19]

sangs rgyas pad ngan<sup>83</sup> sbrang rtsi<sup>84</sup> sbrang ma la //

sbun la snying po mi gtsang nang na gser //

sa la gter dang myug sogs 'bras phyung dang //

gos hrul nang na rgyal ba'i sku dang ni //<sup>85</sup> [20]

bud<sup>86</sup> med ngan ma'i lto<sup>87</sup> na mi bdag dang //

sa la rin chen gzugs yod ji lta bar<sup>88</sup> //

glo bur nyon mongs dri mas bsgrigs<sup>89</sup> pa yi //

sems can rnam la de bzhin khams de gnas //<sup>90</sup> [21]

zhes pas rigs dang khams su yang bstan no // slob dpon klu yis bshad pa //

de bzhin gshegs pa'i rang bzhin gang //

'gro ba 'di yi rang bzhin yin //

de bzhin gshegs pa'i rang bzhin med //

80 LM: /.

81 RGV 1. 155. Johnston, *op. cit.*, p. 76:

sūnya āgantukair dhātuḥ savinirbhāga-lakṣaṇaih /  
aśūnyo 'nuttarair dharmair avinirbhāga-lakṣaṇaih //

82 RGV 1. 27. Johnston, *op. cit.*, p. 26:

buddha-jñānāntargamāt sattva-rāśes tan nairmalyasyādvayatvāt prakṛtyā /  
bauddhe gotre tat phalasyopacārād uktāḥ sarve dehino buddha-garbhāḥ //

83 L: *nang*.

84 L: *rtsa'i*.

85 RGV 1. 96. Johnston, *op. cit.*, pp. 59–60:

buddhaḥ kupadme madhu makṣikāsu tuṣesu sārāny aśucau suvarṇam /  
nidhiḥ kṣītav alpa-phale 'nkurādi praklinna-vastreṣu jīnātma-bhāvah //

86 L: *bu*.

87 D: *lho?*

88 M: *bur*.

89 M: *sgrib*.

90 RGV 1. 97. Johnston, *op. cit.*, p. 60:

jaghanya-nāri-jāthare nrpatvaṃ yathā bhaven mrtsu ca ratna-bimbam /  
āgantuka-kleśa-malāvṛteṣu sattveṣu tadvat sthita eṣa dhātuḥ //

'gro ba 'di yi rang bzhin med //<sup>91</sup> [22]  
 de skad bshad pa'i med pa spros med de //  
 gzhan du khyad gzhi med par khyad<sup>92</sup> chos dpyod<sup>93</sup> //  
 sgyu ma lta bu la yang dpyad pas ci //  
 'gro ba'i rang bzhin dngos por dogs pa bcad // [23]  
 chos dbyings de ni bde gshegs snying po ste //  
 rtag pa kun khyab rang rig ye shes dang //  
 (B. 11) rnam pa thams cad pa ste yongs gcod mtshan //  
 spros dang bral zhing ma gos rnam bcad don // [24]  
 zung 'jug rang bzhin rigs dang (L. 10a) don dam mkhas //  
 de ltar de yi mtshan nyid rnam pa dgu /  
 'di la don dam dbyings kyi gnas tshul dang //  
 rnal 'byor can la ji ltar snang tshul lo // [25]  
 'gyur na dngos po yin phyir rdzun pa ste //  
 'gyur ba med pa yod phyir shin tu rtag /  
 cha dang bcas la kun khyab mi srid cing //  
 cha med nye ring med pas khyab par 'thad // [26]  
 shes dang shes bya'i dbye ba med phyir dang //  
 rgyal bas mkhyen phyir rang dang rig par grub //  
 rig kyang rig bya rig byed mi dgos te //  
 gsher ba la yang gsher (D. 7b) bya gsher byed med // [27]  
 gsher ba'i ngo bo tsam zhig 'jog pa ltar //  
 (M. 24) rang nyid rig pa tsam 'di<sup>94</sup> dgag nus su //  
 rgyal ba'i mkhyen dang dbye ma med pa'i phyir //  
 dbyings te<sup>95</sup> rgyal ba'i mkhyen par tshad mas grub // [28]  
 de phyir yon tan mtha' yas ci phyir med<sup>96</sup> //  
 des ni shes bya mtha' dag shes pa'i phyir //

91 *Mūlamadhyamakakārikā* 22. 16. J.W. de Jong, *Nāgārjuna: Mūlamadhyamakakārikāh*. Madras: The Adyar Library and Research Centre, 1977, p. 31:

tathāgato yatsvabhāvas tatsvabhāvam idaṃ jagat /  
 tathāgato niḥsvabhāvo niḥsvabhāvam idaṃ jagat //

92 L: *khyed*.

93 L: *dpyed*.

94 L: *du*.

95 L: *de*.

96 L: *mod*.

shes bya kun gyi don dam rnam pa 'dzin //  
 de phyir de la 'khor 'das rnam kun 'char // [29]  
 pha rol phyin kun mthun pa'i chos nyid pas //  
 de goms pa las 'di yang mngon du 'gyur //  
 nyon mongs kun gyi mi mthun chos nyid pas //  
 de sbyangs dbang las 'di mngon 'gyur ba yin //<sup>97</sup> [30]  
 rtog<sup>98</sup> pa'i yul kun dag las 'das pa'i phyir //  
 de ni (L. 10b) spros dang brjod pa kun dang bral //  
 yang dag min<sup>99</sup> rtog gdod nas med pa'i phyir //  
 de la gos pa mi srid de ma gos // [31]  
 mtshan nyid khegs nas<sup>100</sup> mtshan gzhi khegs 'gyur te //  
 lus bkag na ni lus ldan khegs 'gyur la //  
 lus ldan bkag na mi la sogs pa khegs //  
 de khegs na yang nam mkha' mi khegs bzhin // [32]  
 skye ba bkag<sup>101</sup> pas skye ldan khegs 'gyur mod<sup>102</sup> //  
 skye med gnas lugs dgags<sup>103</sup> par mi nus so //  
 'di yi rigs pa gzhan rnams kun la sbyar //  
 rtag khyab sogs dang spros bral 'gal ba med // [33]  
 stong dang stong min zung du 'jug pa ste //  
 don la zung med phyir na 'jug pa'ang med //  
 rnam dbyer med la de yi rnam bzhag<sup>104</sup> byas //  
 kun rdzob kyis stong ye shes kyis mi stong // [34]  
 rnal 'byor can gyi blo dang go bstun nas //  
 de ni rigs yin de ni khams kyang yin //  
 thog med dus nas brgyud de 'ongs pa dang //  
 chos nyid kyis thob skye mched<sup>105</sup> drug gi chos // [35]

---

97 L: ///.

98 D: *rtogs*.

99 L: *mi*.

100 L: *na*.

101 L: *'gags*.

102 D: *med*.

103 LM: *dgag*.

104 LM: *gzhag*.

105 L: *mchod*.

de 'dra ba zhes khyad chos gsum ldan par //  
 gsung dang dpe dgus snying po bstan pa'i tshul //  
 phal cher sgrub po'i blo ngor mthun tshul yin //  
 sems can re re'i<sup>106</sup> (M. 25) snying po re re dang // [36]  
 (B. 12) rgyun ldan tshul dang (D. 8a) sangs rgyas rnam kyis<sup>107</sup> ni //  
 sku dang thugs (L. 11a) su 'dra mtshungs tsam gyi rigs //  
 de yang lam gyis 'phel bar<sup>108</sup> 'gyur tshul sogs //  
 rnal 'byor<sup>109</sup> can la ji ltar snang tshul te // [37]  
 de la'ang skye 'phags mthong tshul so sor yod //  
 de dag gnas tshul dbang du byas pa min //  
 'di ni dus gsum khyab kyang dus dang bral //  
 de phyir rgyun zhes bya ba 'dir mi 'dod // [38]  
 rgyun ni 'khrul ngo tsam du zad phyir med //  
 ye shes ma 'khrul ngo bor yod phyir ro //  
 so sor yod na 'khrul phyir de mi bden //  
 dper na go sa tha dad gnas rdul bzhin // [39]  
 lam gyis<sup>110</sup> 'phel ba'ang<sup>111</sup> rang bzhin ma yin pas //  
 sangs rgyas ye shes glo bur ba nyid skyon //  
 kun khyab kun gzhi<sup>112</sup> yin pas chos kun gyi //  
 khams yin rnam kun pas na rigs kyang yin // [40]  
 khams don gser khams gser rdo la<sup>113</sup> khyab bzhin //  
 rigs ni 'dra dang yang na gcig pa'i don //  
 sangs rgyas kun tu khyab pa yin mod kyang //  
 cha shas re res so sor khyab min te // [41]  
 sangs rgyas rdzogs pas<sup>114</sup> sems can re rer khyab //  
 sems can sgrib pas bsgribs<sup>115</sup> phyir de ma mthong //

106 M: *rer*.107 L: *kyi*.108 DM: *par*.109 BM: *byor*.110 B: *gyi*.111 DL: *pa'ang*.112 L: *bzhi*.113 D: *sa*.114 BD: *pa'i*.115 D: *sgrib*.



nyin byed sprin gyis nam yang ma bsgribs<sup>116</sup> mod<sup>117</sup> //  
 sa gzhi sprin gyis khebs tshe skye bo rnam // [42]  
 (L. 11b) nyi ma sprin gyi sbubs nang gnas zhes smra //  
 'gro ba'i bde gshegs snying po'ang de dang mtshungs //  
 snying po med na chos nyid med par 'gyur //  
 chos nyid med na chos can ga la yod // [43]  
 de med na ni mtshan nyid 'dzin pa med //  
 de yang med na shes bya rig bya dang //  
 rtogs bya mthong ba la sogs med par 'gyur //  
 med na kun rdzob ji ltar snang tsam la // [44]  
 skur mi 'debs zhes zer ba'ang bslu tshig<sup>118</sup> tsam //  
 snang na shes rig rtogs mthong med par 'gal //  
 (M. 26) ma brtags snang ba tsam du chos nyid ni //  
 yod kyang don dam bden par med do zer // [45]  
 snang ngor de 'dra yod na 'jig rten pa'i //  
 skye bo rnam la (D. 8b) chos nyid snang bar 'gyur //  
 bden par med cing snang yang mi snang na //  
 yod pa'i tha snyad tsam yang ga la 'thad // [46]  
 bden med snang na bslu chos kun rdzob ste //  
 don dam de ni chos can yin par 'gyur //  
 des na 'jig rten snang ngor 'di med de //  
 ye shes ngor ni snang zhing bden pa yin // [47]  
 'khor 'das kun gyi gzhi yin don dam phyir //  
 kun gzhi ye shes nyid du dam pas dgongs //  
 kun gzhi rnam shes snying por gsungs pa yang //  
 sor mo'i rtse mos zla ba mtshon pa dang // [48]  
 gos dmar bstan pas (L. 12a) skyes bu mtshon dang 'dra //  
 blo zhan rnam kyis 'di don mi shes gsungs //  
 rang (B. 13) gi ngo bor<sup>119</sup> don dam mya ngan 'das //

---

116 M: *bsgrib*.

117 L: *med*.

118 L: *tshigs*.

119 L: *bo*.

'di la dmigs pas zhi ba thams cad thob // [49]  
 gser yod na ni de yi g-ya' bzhin du //  
 'khor ba<sup>120</sup> thog tha med pa'ang de las shar //  
 dbyings de 'khor ba'i rgyu ni min mod<sup>121</sup> kyang //  
 de med na ni de yang mi srid pas // [50]  
 mkha' la rlung gi dkyil 'khor rten<sup>122</sup> zhes ltar //  
 'khor ba'i gzhir gyur<sup>123</sup> zhes pa'i<sup>124</sup> rnam gzhas<sup>125</sup> byas //  
 glo bur mya ngan 'das pa'i dmigs pa ste //  
 de'i yang gzhi dang rgyu zhes mkhas la grags // [51]  
 rten dang gzhi dang rgyu dang rigs<sup>126</sup> zhes pa //  
 rnal 'byor can gyi blo la 'char tshul yin //  
 de der bshad pas don dam dbyings de yi //  
 gnas tshul rtogs pa'i dgos pa yod phyir gsungs // [52]  
 rang bzhin rigs la sad dang ma sad med //  
 de yod rgyu mtshan rgyas 'gyur skyes pa la //  
 de yang sad ces rnam gzhas<sup>127</sup> byas pa tsam //  
 'di 'phel de yang 'phel ba'i tha snyad btags // [53]  
 thob yul med na chos kun 'bras bu (M. 27) med //  
 yod kyang dngos med thob pas dgos pa ci //  
 gsar skyes de ni bzlog<sup>128</sup> dang rgyun chad srid //  
 yon tan rgyu yang nyung las 'bras mang na // [54]  
 phal (L. 12b) cher rigs 'dra gsar skyes cis ma yin //  
 skyon rnams yon tan gyur yang mi mnyam ste //  
 sangs rgyas ye shes yon tan mtha' med phyir //  
 (D. 9a) de phyir gdod ma nyid la 'bras bur bzhas<sup>129</sup> / [55]  
 sangs rgyas mi rtag chos sku med dgag dang //

120 D: *pa*.121 L: *mod*.122 B: *brten*.123 L: *'gyur*.124 L: *pa*.125 B: *bzhag*.126 D: *rig*.127 BD: *bzhag*.128 DL: *zlog*.129 LM: *gzhas*.

snying po gtan med yang na bden med smra //  
 snying po yon tan med dang chos 'dir smod<sup>130</sup> //  
 de dag tshe thung nad mang mdze<sup>131</sup> nad can // [56]  
 nor nyams dbang thang nyams dang srid nyams dang //  
 blun lkugs<sup>132</sup> ngan 'gror skye zhes mdo las gsungs //  
 'di don smra rnams tshe ring nad med bde //  
 go 'phang mi g-yo rtag pa'i sku thob<sup>133</sup> nges // [57]

zhes pa sangs rgyas kyi snying po chos kyi dbyings gtan la dbab pa'i rab tu byed pa ste  
 gsum pa'o // //

(本研究は平成22年度科学研究費補助金「基盤研究 (C)」による研究成果の一部である)

〈キーワード〉 Tāranātha, Kun dga' snying po, Jo nang pa, *dBu ma theg mhcog*, Buddha  
 nature, dharmadhātu

---

130 L: *smed*.

131 L: *'dze*.

132 M: *lkug*.

133 L: *'thob*.